

経営比較分析表（平成29年度決算）

神奈川県藤沢市 藤沢市民病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	500床以上	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	34	対象	透I未訓ガ	救臨が感災地
人口(人)	建物面積(m ²)	不採算地区病院	看護配置	
430,685	57,646	非該当	7:1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

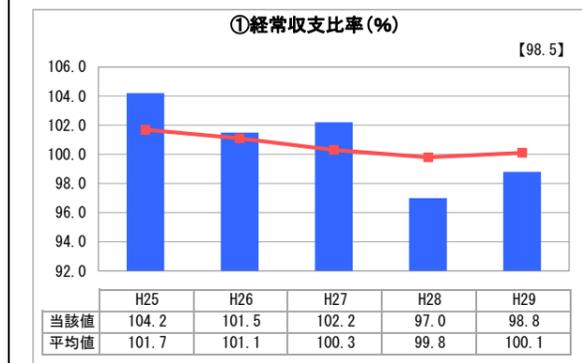
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
530	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	6	536
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
530	-	530

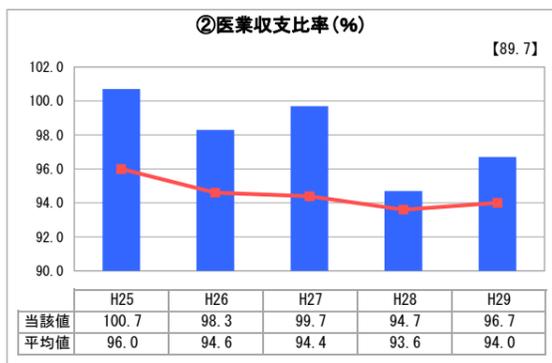
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

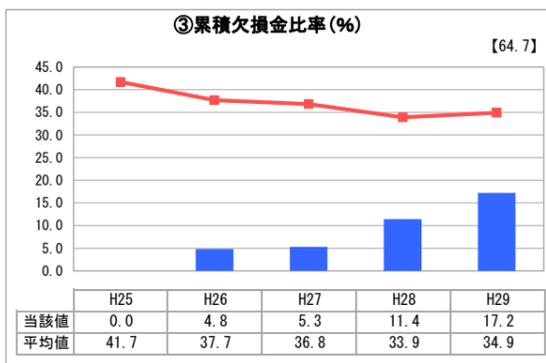
1. 経営の健全性・効率性



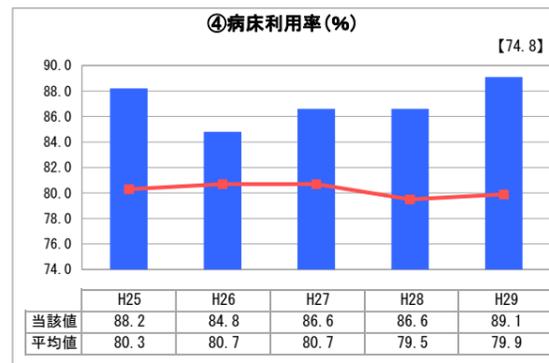
「経常損益」



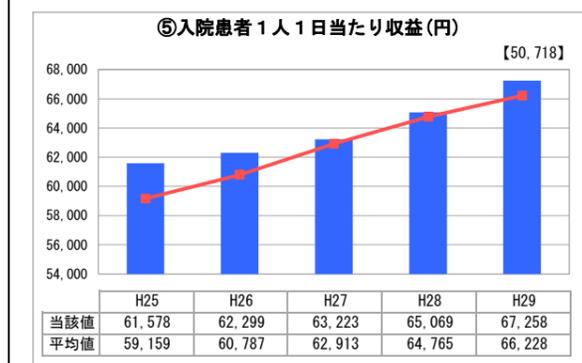
「医業損益」



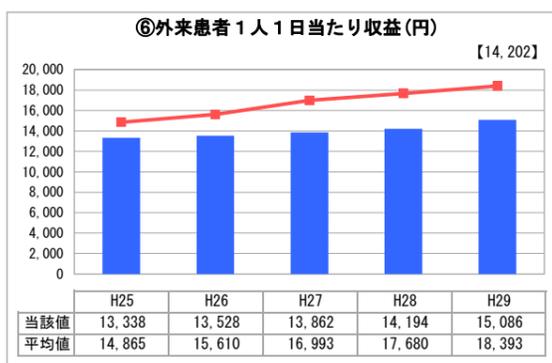
「累積欠損」



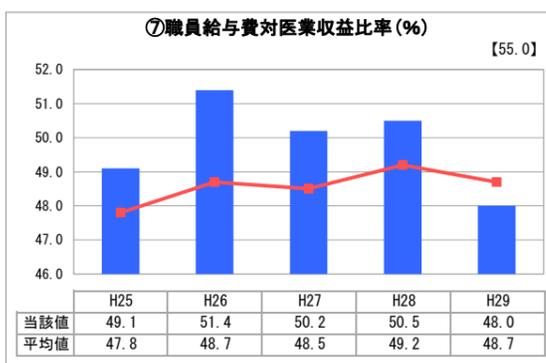
「施設の効率性」



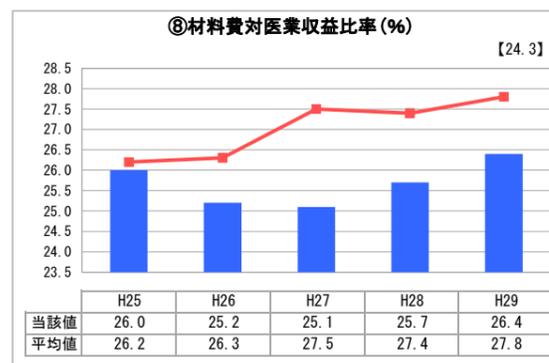
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

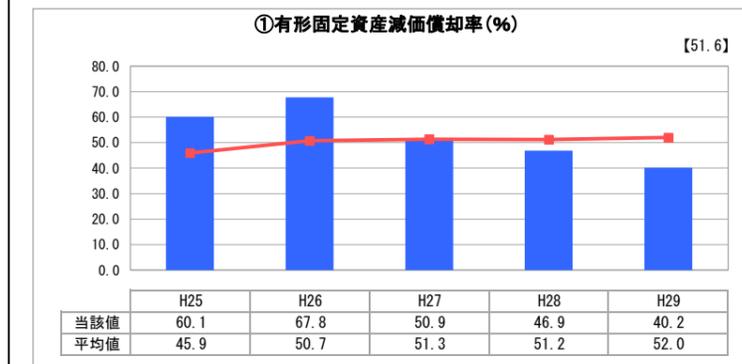


「費用の効率性①」

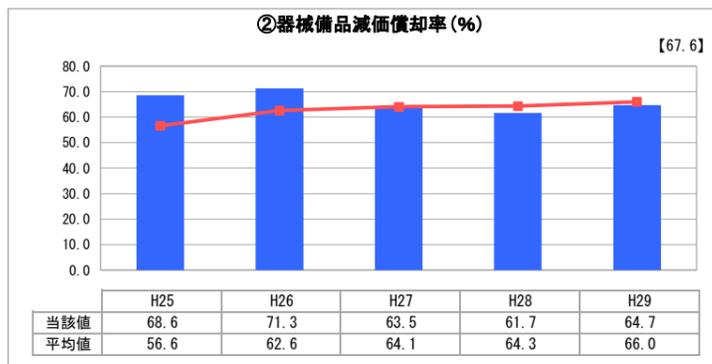


「費用の効率性②」

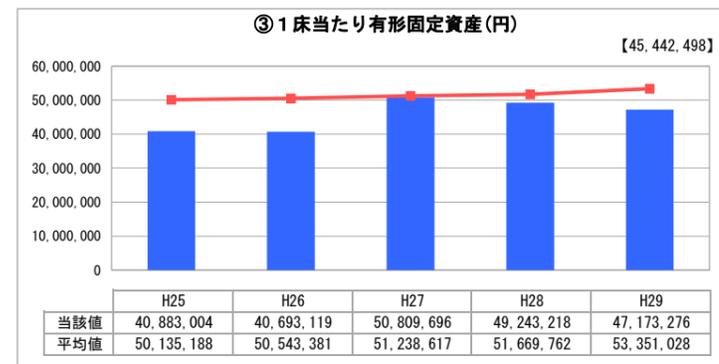
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「器械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

I 地域において担っている役割

当院は救命救急センター、災害拠点病院、地域医療支援病院などの指定や承認を受けており、湘南東部保健医療圏において数多くの医療機能を担い、地域から必要とされる高度急性期・急性期医療を提供する役割を担っています。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は再整備事業の進捗に伴う減価償却費の増加等により平成28年度に引き続き100%を割り込んでいます。しかしながら、病床利用率や入院及び外来患者1人1日当たり収益の増加に伴い医業収益が増加したことにより、平成28年度に比べて若干上昇し、98.8%となりました。累積欠損金は平成29年度に再整備事業に伴う建物の除却による特別損失を計上したことにより年度末で約30億4,373万円となり、累積欠損金比率としても前年度比で5.8%ポイント増加しています。

2. 老朽化の状況について

開院以来使用している旧東館の耐震不足と老朽化に起因する医療提供上の課題解決等を目的として、平成24年度より建て替えを中心とした市民病院再整備事業を進めています。平成29年度には旧東館を取り壊し、新設した東館の供用を開始したことにより有形固定資産減価償却率は40.2%まで低下しています。

全体総括

平成29年度は市民病院再整備事業の進捗に伴う減価償却費の増加等により前年度に引き続き経常収支比率が100%を下回りましたが、平成28年度末に策定した藤沢市民病院健全経営推進計画書に基づき経営改善に取り組んだことにより収益は増加し、多くの取組項目で当初の計画値を大きく上回りました。今後も病院を取り巻く環境は厳しいものが想定されますが、医療機能を強化して収入を確保するとともに、費用の適正化を含めて支出を縮減し、平成32年度までに経常収支比率を100%以上とすることを目標としています。

※ 「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。